

P-5-1 スパコンの節電運用について

Thursday, 7 March 2024 15:30 (40 minutes)

2022 年度まで電力単価が上昇しており、2023 年度当初の単価が維持された場合、計算科学研究センターの電気代予算を超過することが確実であった。スパコンの消費電力を減らす必要があったが、具体的な方策には様々なものが考えられた。運用ノード数は減らさない方針が示されたため、CPU のクロックをどれくらい落とすかがポイントとなった。その判断材料として、CPU の動作モードを変えて分子動力学計算の計算時間とノードの消費電力を調べた。その後、計算に使われている CPU のコア数-GPU 数と消費電力の関係の可視化と月間消費電力量の予測を行なえるようにしたが、様々な要因により消費電力に揺らぎが生じていることも紹介する。

Presenter: 建輔, 岩橋 (分子科学研究所 技術推進部計算情報ユニット)

Session Classification: ポスター発表